障害者雇用企業との連携による多摩祭 T ボール大会の開催

山本　真知子　准教授
（人間関係学部　人間福祉学科）

大妻女子大学人間関係学部人間福祉学科は、高等教育機関として全国で唯一、厚生労働大臣指定を受け、ジョブコーチ（職場適応援助者）養成に取り組んでおり、障害者の就労支援機関や障害者雇用企業にジョブコーチの人材を輩出しています。それらを背景に、多摩地域にある大手企業の特例子会社（障害者雇用を進めることを目的に設置された子会社）等から成る「多摩障害者雇用企業連絡会」と、大妻女子大学人間関係学部の有志が連携し、働く障害者のためのスポーツ大会として、多摩祭の 2 日目に合わせて「多摩祭 T ボール大会」を開催するものです。「T ボール」とは、ソフトボールを土台にした球技で、ピッチャーがボールを投げる代わりに、ティーの上に置いたボールを打つことで、障害のある人、高齢者、子ども等、幅広い層の参加を容易にしています。

1. 大会の様子

本年度は、令和 4 年 10 月 30 日（日）に多摩キャンパス人口芝グラウンドにおいて「令和 4 年度 多摩祭 T ボール大会」を開催しました。今年度は、6 社 6 チームが参加し、3 チーム 2 ブロックでリーグ戦を行い、各ブロックの 1 位のチームが総合優勝を争いました。コロナ禍により 2 年半近く T ボール大会を行えていなかったため、実行委員の学生自身も T ボール大会を経験しておらず、準備も手探りの状態からスタートしました。しかし、実際に開催してみると、久々に青空の下でスポーツを出来る爽快感もあって、プレーヤーと応援参加者が一体となって大いに賑わいました。当日は久しぶりの対面開催となった大妻多摩祭もあったため、学園祭を見に来られた方もグラウンドまで足を運んで試合を見学する様子も見受けられました。

この大会は、人間福祉学科のジョブコーチ養成課程で学ぶ 3・4 年生で実行委員会を結成し、準備と当日運営にあたりました。また、それ以外にも、2 年生にボランティアを呼びかけ、合計 26 名の学生が参加しました。実行委員の 3・4 年生は運営に関わる裏方仕事を行い、授業で募集した 2 年生が各チームに入って特例子会社の方々と一緒にプレーをし、各チームに入って応援を盛り上げました。学生たちは、朝のうちは緊張していましたが、各チームの皆さんに温かく迎えて頂き、気さくに話しかけて頂くことでリラックスし、午後はすっかり溶け込んでいる様子でした。また、運営には、東京 T ボール連盟が全面的に協力して下さり、多数の審判が駆けつけて下さいました。このように、企業側スタッフ、学生、教職員、審判のボランティアなど、多くの人々の協力によって、これだけ大きなイベントが多摩キャンパスで開催されることは大変意義のあることと考えます。



当日の朝の準備の様子



多摩キャンパスの人工芝グラウンド

2. 大学と企業の連携をする利点

本事業は大学、企業双方にとって多くの利点がありますが、以下に簡単に整理してみます。

＜企業側の利点＞

会場の確保： T ボール大会ができる会場確保は容易ではありません。大妻多摩キャンパスのグラウンドを使用できることは非常に大きな利点です。

学生との交流： 単に会場を利用するだけでなく、学生が各チームに入って障害のある参加者と交流することが、大会を明るく楽しい雰囲気に盛り上げることに大きく貢献しています。「大妻での T ボール」は障害のある従業員にとって、楽しみな年間行事となっています。

＜大学側の利点＞

障害のある人との交流： 福祉学を学ぶ学生にとって、学内のイベントで障害のある人と交流できることは貴重な学びの機会となっています。コロナ禍においてはボランティア活動が一切できなくなりました。大学内で T ボール大会が行えたことで、学生がボランティアをする機会を再び得られることに繋がりました。また、福祉施設で行うボランティアや社会福祉士実習と異なり、障害のある人と「支援する側・支援を受ける側」 といった関係でなく、自然な立場で交流できることは、「障害者＝福祉サービスの対象」といった固定的な考えを打ち破り、より柔軟で広い視野を持つために重要な機会となっています。

企業との連携： 人間福祉学科では、平成 30 年度に厚生労働省より、高等教育機関として初めて職場適応援助者（ジョブコーチ）養成研修機関の指定を受けました。最近では、大企業の障害者雇用部門においてジョブコーチのニーズが高まっており、大妻で社会福祉士や精神保健福祉士の資格を取得し、ジョブコーチ養成研修を修了した人材の採用に興味を持つ企業も増えています。既に複数の企業において、この T ボール交流大会を経験した大妻の卒業生がジョブコーチとして活躍しています。今後も、T ボール交流大会を通して障害者雇用企業との連携を維持していきたいと思います。



当日の大会の様子



表彰式の様子

3. 今後に向けて

ボランティアとして各チームに入った学生からは、「最初は緊張したが沢山話しかけてもらって楽しむことが出来た」「普段の仕事の話を聞かせて貰って自分も頑張らなければと感じた」「ジョブコーチの仕事にますます興味が高まった」など、授業では得られない経験が出来た喜びが表現されていました。また、参加企業からも多くのコメントが寄せられ、特に準備、運営を仕切った実行委員の学生に対しては、「熱意と真面目さを感じた」「企業としてこのようなイベントを作れる人材を欲している」など高く評価する意見を頂くことが出来、大学と参加企業の双方にとって意義のあるプロジェクトとなったと感じます。今後、障害者雇用企業が増加する中で、大学としての人材育成を行い社会へ送り出すとともに、在学中からの企業との連携を強化していきたいと考えています。